

みんなの



福岡大学医学部精神科 講師 小林 隆児

子どもの心の発達(第11回)

小児自閉症(その4)

3回にわたって自閉症の発達の特徴について述べてきましたが、彼らの発達をいかに促進していくか、阻害しないようにするかを考へることが治療教育に求められます。ライフサイクルの視点からそのポイントを述べてみたいと思います。

乳児期は未だ自閉症の診断を行なうことは困難ですが、特徴的サインはいくつかあります。母子の交流を子供のほうから求めることが少ないため、親は楽をしたい欲求にかられますが、だからこより一層母親からの積極的刺激と働きかけが必要になります。育て易い赤ん坊は健康な証拠と早合点しないことです。

幼児期になると視線が合わない、関心の偏りなど自閉症の特徴がはつきりしてきますが、この時期は親にとって最も手のかかる大変な時期です。家族全体が混乱状態を呈してしまいがちです。従って親の不安をいかに軽減しなが

ドクター (Illustration of a doctor's office with a sign that says 'ドクター' and 'うしました')

アメリカの子供の歯

毎年増加傾向にあった、永久歯のむし歯もやっとな数年平衡状態になり、乳歯のむし歯はやや下降傾向をみせ始めた報道されています。しかし、手ばなしでは喜べません。現実、他の先進国に比べると群を抜いて日本の子供にむし歯が多く、しかもその程度がひどいからで

先日、機会がありアメリカの小児歯科専門医や大病院を見学して廻り、日本と大きく違うのに驚きました。それは治療の80%以上がむし歯予防に関するもので、残りの20%がむし歯の治療であると言うことです。もともとアメリカでは子供達はもとより、大人に至るまで年に数回必ず歯科の定期検診を受ける習慣があるので、ここで言うむし歯というのはレントゲンで確認してはじめて分かるくらい小さなむし歯なのです。ですから、日本のように歯が痛いと言って急患で歯科医院を訪れる子供達



福岡歯科大学 小児科歯科学教室 助手 石井 香

は殆どいないそうです。その背景には、医療費が日本に比べて非常に高いということもあるようです。しかし、小さい時から歯に対する教育が自然に身に付いているようです。例えば、最近日本でも時々見かけられるようになりましたが、スーパーマーケット(ドラッグストア)の棚に、ありとあらゆる種類のむし歯予防の器具や薬が並んでおり、むし歯予防が日常生活の中に溶け込んでいるという感じが

です。また、アメリカの国民一人当たりの砂糖消費量は日本の約1.5倍と言う事からも分かりますが、決して甘い物を食べないという訳ではありません。ただ日本の様にだらだら食べるのではなく、食後のデザートとして時間を決めて、食べているようです。この習慣もひどいむし歯を作らぬために役立っていると思われま

健康コラム



プールの熱(咽頭結膜熱)は夏の病気

9歳の男。プールで泳いだ翌日によく微熱を出します。原因がよくわかりません。プールに何か原因があるのでしょうか。

A 盛夏から初秋にかけて多い、小児の夏かせの一種です。アデノウイルスが原因で、ふつう、流行しても小流行、地域流行程度です。しばしば夏のプールを介して流行するため、プール熱とも呼ばれます。症状は、38〜40度の熱が3〜4日間程つづき、咽頭炎、結膜炎を起こします。ただし、これらの症状が常に出るとは限らず、一つ二つの症状しか出なかったり、不顕性感染のケースも少なくありません。特効薬はないのですが、対症療法によって5〜7日のうちには治ります。

ウイルスは患者ののどから約2週間、便から数週間にわたって排出され、感染源となります。乳児が感染すると、夏かせ、肺炎、下痢症、発疹などのほか、腸重積症の原因ともなります。学童や大人がこの病気にかった時は、乳児に近づけないことが大切です。